

ひばりたちは、はなしをはじめました。「くいっちょ、くいっちょ」ピーくい、ピーい」これをきくと、おしゃべりひめは、ふしぎなことも、なにもかもわすれて、おかしくてたまらなくなりました。「まあ、おかしいこと。あの一、ひばりさん。ここは、なんというところですか。おしえてちょうだいな」と、ちかよっていきました。そうすると、ひばりのふうふは、あわてて、にげだしました。「ピーつく、ピーつく」「つくりいよ、つくりいよ」と、いっしょうけんめいに、さけびながら、じぶんのいえのほうへ、にげていきますと、そのこえをききつけて、もり

のなかから、たくさんのひばりが、
でてきました。そのひばりたちは、
みんなにんげんのすがたをしてい
て、おじいさんのようなの、おばあ
さんのようなの、または、わかいひ
とからこどもまでいるらしく、みん
なぞろぞろとつれだって、おしゃべ
りひめを、すっかり、とりまいてし
まいました。おしゃべりひめを、と
りまいたひばりたちは、はじめは、
みんなだまってふしぎそうに、おし
ゃべりひめをみていました。けれど
も、なにもわるいことをしそうにも
ないので、ひめは、あんしんをしま
して、もういちど、たずねてみまし
た。「ま